

報告

2010 年春の天文教育フォーラム ～世界天文年後の天文教育と普及～

仲野 誠（大分大学教育福祉科学部）

1. はじめに

日本天文学会春季年会の初日、学会との共催による天文教育フォーラムが、広島大学の東広島キャンパスにおいて 3 月 24 日（水）15:00 から約 1 時間半、「世界天文年後の天文教育と普及」というテーマで実施されました。



図 1 会場の様子（撮影：渡辺真由子氏）

本会会員であれば言うまでもなく 2009 年は世界天文年でした。さまざまな天文関連イベントが世界各国で開催され、国内においては 12 月の神戸でのグランドフィナーレで、その幕を閉じました。会員のみなさんもさまざまな面で世界天文年と関わりをもたれた方が多かったと思います。また 2009 年は天文現象にも事欠かず、特に 7 月の皆既日食はメディアでも大きく取り上げられました。従来の個々の活動がこの機会に全国的に組織化されたり、新たな試みに取り組まれた例もありました。各地で催されたイベントには、例年にも増して普段は天文学に関心の薄い層の人たちにも天文学をアピールすることができたものと思われます。

しかし、昨年に盛り上がったこのような活動を一過性のものとして終わらせるのは大変もったいないことです。これを契機として、一般市民までも巻き込んだ息の長い天文学の

教育普及活動に繋げてゆくことは重要でしょう。そこで、フォーラムのテーマとして昨年繰り広げられた教育・普及の企画から、その経過と課題や問題点等を中心に報告していただき、世界天文年後の天文教育と普及について考える一助にしたいと考えました。

2. フォーラム

さまざまな側面をもつ数多くの企画の中から、今回のフォーラムでは世界天文年日本委員会の主要企画や一般の公認企画から、以下の 4 件に絞って報告をいただきました。

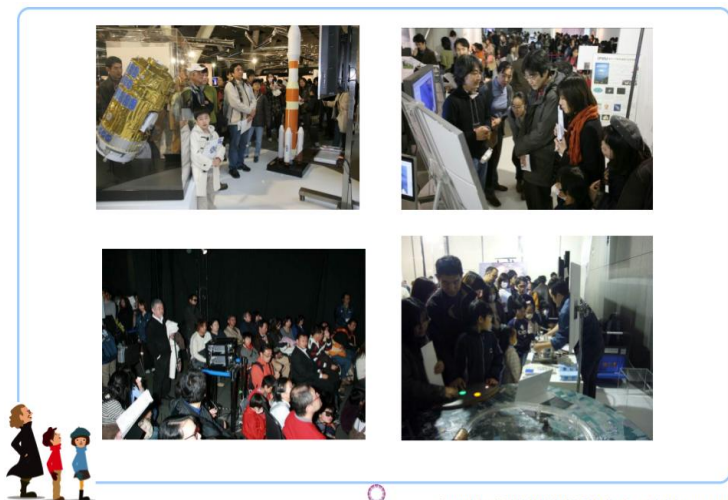


図 2 宙博の様子（藤原氏による）

まずは、この世界天文年をきっかけとして昨年 12 月に東京で開催された「宙博（ソラハク）」について、仕掛人であるインターネット総合研究所の藤原洋さんにご紹介していただきました。藤原さんは岡山の新型望遠鏡開発や名古屋の常設サイエンス・カフェなどの事業化などにも取り組んでおられます。この

「宙博」は天文学や宇宙科学だけにとどまらずに、宇宙航空工学・環境エネルギー技術という3つの側面をもったユニークな企画でした。急遽企画されたイベントにもかかわらず、計4日間で3万人近くの入場者があり、一般市民の好奇心に訴えることにより普及へ向けての新たな社会へのアピールとなった旨の報告がありました。藤原さんの技術者としての経験から、ご自身の熱い想いも披露され、今秋に科学技術館を会場とする第2回への開催準備状況についても話されました。さらに今後も10年間は継続してゆきたいとのことでした。

2.2 学校教育への影響

続いて、主要企画から「君もガリレオ」プロジェクトについて国立天文台の縣秀彦さんからの報告がありました。\$10や\$20というキャッチフレーズで安価で組み立ての簡単な望遠鏡を世界に先駆けて提供し、きめ細かい観察シートを準備した観測キャンペーンと指導者向けの観測イベント等を開催したプロジェクトの経過と成果を発表されました。資金面やスタッフ不足等の問題点などにも言及されましたが、国外へは数千個の望遠鏡を配布され、国内では190もの登録イベントが開催されました。アジアやアフリカなどへの国際貢献の意義と全国からの期待以上の反応に励まされ、今年度も継続されるそうです。



2.3 文化／普及面への寄与

天文学の一つの大きな特徴として、地域の文化や歴史等とも深いかわり合いがあると

いう点が上げられます。その視点から、紹介される機会が少ないアジアにおける天体にまつわる神話や伝説を収集する活動として、国立天文台の吉田二美さんに、主要企画の「アジアの星の神話・伝説」プロジェクトの紹介をしていただきました。成果をプラネタリウム番組や学校教育にも活かすべく、各国の伝統文化に彩られた絵とともに60以上もの話が収録予定の本を現在準備中とのことでした。

2.4 研究者側からの発信

最後に、日本天文学会の副理事長でもある京都大学の柴田一成さんに「全国同時七夕講演会」について報告をいただきました。学会と本会が共催して、一般の関心が高まる7月7日の七夕前後の期間に全国各地で同時に講演会を実施し、天文普及にもつなげようとする初の試みです。短い準備期間にもかかわらず、昨年は国内の100近くもの会場において天文学研究者らによる講演会が開催されました。柴田さんからも研究者としての立場から、その意気込みを参加者に伝えていただきました。また学会時に実行委員会の会合がもたれ、今年もこの講演会の継続が決まった旨の報告もされました。

3. おわりに

世界天文年後の天文教育と普及における進展を期待させるような話題を提供していただいた方々に感謝の意を表したいと思います。フォーラムの開催時間帯が学会の口頭セッションの合間であったために、質疑に十分な余裕をとることができませんでしたが、参加者も約150名と盛況でした。



仲野 誠